



松阪市天文台の歴史

76年の周期で太陽系を巡るハレー彗星が地球に到来し、全国に天文フィーバーが吹き荒れたとき、まだ三重県下には誰もが気軽に利用できる一般公開された天文施設はありませんでした。

その頃、松阪を中心としたアマチュア天文家たちの呼びかけで「天文台建設」の署名活動が行われ、多くの方の協力をいただいて、ついに宝くじ協会の普及宣伝助成事業により、松阪市と熊野市に双子の天文台が建設されることになりました。

そして、昭和62年（1987年）に中部台公園内に松阪市の施設として天文台が竣工し、以来、ボランティア指導員が中心となって運営を行っています。



天文台の望遠鏡

松阪市天文台のメインの機材は、2階の天文ドームの中に据えられた口径45cmのカセグレン式反射望遠鏡（ゼロデュア苗村鏡）で、コンピューター制御により、狙った星を正確に捉えることができます。月のクレーターや土星の輪はもとより、肉眼の約4千倍の光を集めて、数千万光年離れた銀河も見ることができる望遠鏡です。また、15cm屈折望遠鏡（フローライト）を同架しており、対象とする天体に応じて使いわけています。

来館された皆さんには、主にこれらの望遠鏡で、星空を観察していただいておりますが、たくさんの方の見学の方が訪れたときや、天の川の観察など、状況や対象に合わせて、25センチ反射望遠鏡や双眼鏡を野外に設置して楽しんでいただいております。



木星



M42オリオン大星雲



天文台の望遠鏡で撮影した天体

宇宙を知る

こどもクラブ

（毎月最終土曜日午後7時から9時まで）

「こどもクラブ」は、小中学生を対象として、星に関する学習や工作を行う会員制の講座です。観測会では指導員によるオープンプラネタリウム、また天文工作としては、簡易プラネタリウムや星座パネルなどを作って宇宙への理解を深めています。

参加を希望される場合や詳細のお問い合わせについては、天文教室の際に指導員にお尋ね下さい。



こどもクラブの工作教室で製作した学習器具
左より：想像の惑星・土星のモデル・プラネタリウム
星座フレーム・月齢モデル・万華鏡・分光器など

